

下肢閉塞性動脈硬化症

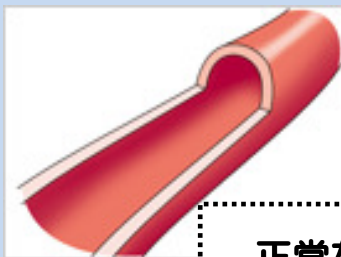


松阪市マスコットキャラクター
「ちゃちゃも」

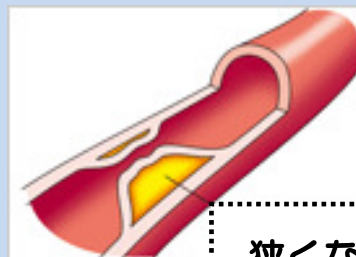
作成：医事課

＜病気について＞

下肢閉塞性動脈硬化症は、足の血管の動脈硬化により、**狭窄**（血管が狭くなる）や**閉塞**（血管が詰まる）を起こして、血液の流れが悪くなり、手先や足先へ**栄養**や**酸素**を十分に送ることができなくなる病気で、さまざまな**障害**が現れます。



正常な血管



狭くなった血管

＜症状＞

下肢閉塞性動脈硬化症の症状は病気の進行とともに**重症度**が1度から4度へと向かって進行していきます。

最も典型的な症状は**間歇性跛行**（Ⅱ度）です。

重症度	症候	具体的な症状
1度	無症状	軽症で、まだ明らかな虚血症状を認めない状態。
2度	間歇性跛行	ある一定距離歩行すると下肢の筋肉の痛みが出現して歩けなくなり、数分休むと再び歩けるようになる状態。血流が充分でないために運動に見合う酸素を供給できなくて起こる症状。
3度	安静時疼痛	さらに虚血が進行して、歩かなくても（安静にしているも）痛みを感じる状態。
4度	潰瘍・壊死	細胞が生きて行くための血流も供給できなくなり、足趾やくるぶしに潰瘍ができたり、黒くなって腐ってきている状態。足を切断しなければならない場合もあります。

<検査>

足の皮膚や筋肉の状態、足の動脈の拍動を触れることができるかどうか、痛みはどうかなどをチェックし、必要に応じて次の検査をします。

血管伸展性検査 (ABI)

ABIは、足関節の収縮期血圧を上腕の収縮期血圧で割った値で、この値が低い場合、心臓と足関節との間の動脈が狭くなっているか、または閉塞性動脈硬化症が起きている可能性が高いことを示します。ABIが1.0以上の場合は正常ですが、0.9以下であれば、足の動脈に病変があると断定できます。この数値が低いほど重症です。

血管エコー検査

下肢全体を描き出すことができ詳細に血管病変をとらえることができます。

造影検査

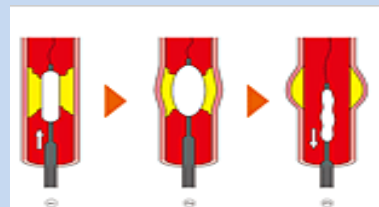
カテーテルでヨードの入った造影剤を注入し、エックス線をあてて動脈の形態を調べます

<治療法>

血管内治療は、動脈硬化によって狭くなった血管を拡げ、血液の流れを改善させる治療です。薬物療法とは異なり、血管の中で直接行われる治療で、次のような種類があります。

☆バルーン法

風船の付いた細い管(バルーンカテーテル)を血管の中に入れて、風船を膨らませることで血管を拡げ、血液の流れを改善・維持させます。



☆ステント挿入

ステントと呼ばれる器具を血管の中に入れて、血管を内側から支えることで血管が狭くなるのを防ぎ、血液の流れを改善・維持させます。

<入院費～概算～>

四肢の血管拡張術 (3日の場合)	1割・2割負担の場合	44,400円(上限)
	3割負担の場合	260,000円

※食事代金、個室代金は含まれていません。

※高額医療の方は、申請により限度額認定証が交付されますので、詳細は医事課まで御連絡下さい。

<当院の実績>

平成27年度：四肢の血管拡張術 25件

平成28年度：四肢の血管拡張術 14件

※パンフレットに関するご不明な点等ございましたら、

医事課までお気軽にお尋ね下さい。

松阪市民病院